

所

感



本田技研工業株式会社  
社長 本田宗一郎

日進月歩の急速な発展をつづけている現代では、技術革新は必要な条件である。

こうした影響もあって技術者優遇の声が高まり、あたかも技術が最高のもののように言われているが、技術はあくまでも人間に奉仕する一つの手段であつて技術に優先するものに人間の思想がある。

人間に奉仕すると言うことは実に尊いことで、技術もまたその一つである以上、正しい道徳思想を根底としない技術は何の意味もなさなればかりか、時には悪事を招くことさえある。技術があれば二セ札を作ることも、銀行の金庫を破ることも大したことはない。要は使う人の心の持ちよう次第でどのようにでも左右されるものである。

これからのわが国の企業は、好むと好まざるとにかかわらず、自由化に対応してゆかねばならないが、技術だけでは不可能である。その前にやるべきことは頭の切りかえが肝心で、その上に立つて技術を使わない限り世界中の人々から愛される商品を作り出すことは出来ないであろう。

また一般に技術を身につけたものを技術者とする向きが多いようだが、技術者とは過去を土台にアイデアを働かせて未来が開拓出来るもの、これが真の技術者であると思う。

見たり、聞いたり、試したり、と言う言葉があるが、本を読んだり人に聞くことも物を造る手段には違いないが、実際に試してみないと意義がないと思う、試すことには必ず失敗がついているが、未来を築くためには失敗を恐れず、不可能を可能にしなければならない。こうした場合、多くのものは、不可能なことだけをならべてあきらめてしまふ傾向が強いが、このようなものは技術屋職人である、

不可能な条件をならべて、手をこまねいていても可能は生まれてこない。その一つ一つを取り除いて行くことが進歩であり、勇気をふるって実践する人が技術者であり、パイオニアである。